

平成25年度千葉県公立高等学校入学者選抜方法等改善協議会（第2回）概要

日時：平成25年7月29日（月） 午前10時から正午まで

場所：千葉市ビジネス支援センター（きぼーる） 13階 会議室1

〔委員等〕

石井信代委員長，田中庸恵副委員長 尾崎由紀子委員，大久保利宏委員（高岡正幸委員代理）
森谷英一委員，小西則子委員，石川善昭委員，松岡和美委員（大木茂委員代理）
関紀子委員，佐久間勝彦委員，田鎖美穂委員，齋藤一浩委員，川崎宏薫委員，中村美彦委員

教育次長，指導課長，教育政策課長，教育振興部副参事兼指導課学力向上室長

- 1 開会のことば
- 2 県教育委員会あいさつ
- 3 補欠委員について
- 4 報告
 - (1) 平成25年度千葉県公立高等学校入学者選抜方法等改善協議会（第1回）の概要について
 - (2) 平成25年度公立高等学校入学者選抜における学習成績分布表等の公表について
 - (3) 平成25年度公立高等学校入学者選抜における選抜・評価方法の公表について
 - (4) 平成26年度千葉県県立高等学校第1学年入学者選抜要項について
 - (5) 平成26年度千葉県公立高等学校「前期選抜」，「後期選抜」等の検査の内容・出題方針について
 - (6) 専門部会（第1回）について
 - (7) その他
- 5 協議
 - (1) 平成26年度以降の千葉県公立高等学校入学者選抜方法等の在り方について
 - (2) その他
- 6 閉会のことば

【質疑・協議結果】

平成26年度以降の千葉県公立高等学校入学者選抜方法等の在り方について，協議を行った。

主な意見等は次のとおりである。

- ・ 県教委は前期選抜・後期選抜それぞれの趣旨の違いを，また，高等学校は自校の特色を，更に周知徹底していくべきではないか。
- ・ 前期選抜と後期選抜の趣旨の違いについては，学校がPRの努力をすべきである。
- ・ アンケート結果について，課題を把握したうえで，それらを改善できる余地があるかについて分析するべきである。現在の前後期制を改善できるなら，現行制度のままでもよいという意見もあるのではないかと。
- ・ アンケート結果での生徒・保護者の意見を踏まえつつ，中学校長・高等学校長の意見も十分検討していくべきである。
- ・ 保護者の気持ちを十分考慮しながら，現場の教員や実際に事務を処理する人間の気持ちを考え，十分な議論が必要である。
- ・ 学校側が反対している理由が理解できない。反対する理由を見えるようにしてほしい。
- ・ 概ね議論は尽くされているのではないかと。協議会としては論点整理をした上で，教育委員会に投げて判断してもらおう時期にきているのではないかと。
- ・ 細かい一つ一つの課題を浮き彫りにし，変えていくべきところは変えていく方向を出していくことが我々に求められている。
- ・ 前期後期ともに学力検査が導入されたため，中学校の生徒・保護者からは，同じ検査を前後期2回に分けて実施していると捉えられていることがある。
- ・ 前後期で同じ高校を受検するということがかかり多く，それで救われる子どもが多いと思うので，考慮していただきたい。
- ・ どのような一本化をするのかという議論をしてほしい。
- ・ 平成27年度以降は大きく変えるということについて，様々な意見を集約し，整理して県民に伝えていくべきである。
- ・ 中学校・高等学校それぞれの入試業務がどのようなものであるのか，お互いに把握することは大事なことである。
- ・ 郡部と都市部での学区内の高等学校数や交通事情等，地域差を踏まえた検討をしていくことが必要である。

平成26年度以降の入学者選抜の在り方については，次回以降の協議会でも継続して協議する。